

第 42 回日本外科系連合学会学術集会で講演しました(2017/6/28-30)

テーマ:「チームのちから」

場所: ホテルクレメント徳島、あわぎんホール(徳島県徳島市)

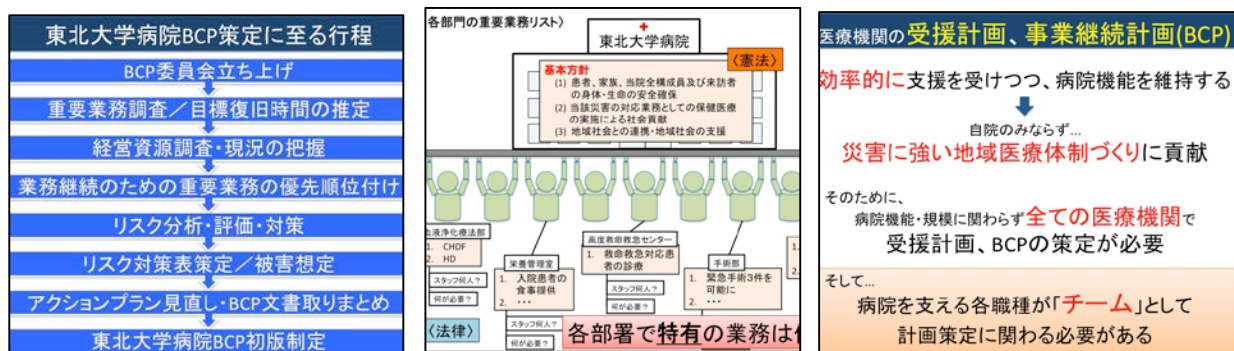
2017 年 6 月 28 日(水)~30 日(金)の3日間、徳島県徳島市のホテルクレメント徳島 あわぎんホールにおいて第 42 回日本外科系連合学会学術集会が開催され、当研究所の佐々木宏之助教(災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野)がワークショップ「災害時におけるチームのちから」において研究成果を講演しました。

日本外科系連合学会は、医学の進歩により分離独立化が進む外科系分野の統合の必要性が謳われ、他の領域の専門家と学び、医道の昂揚ならびに医学・医術の振興を図り、外科系学会を統合する役目を目指し設立されました。専門医制度に縛られない自由な立場から、外科系医療を取り巻く問題を医師のみならずメディカルスタッフを取り込んで議論できる素地があり、実際の臨床現場で必要とされる外科的医療技術・知識・考え方を他職種から学べる基盤があります。

42 回目の開催となる今学術集会では、学術集会のテーマを「チームのちから」と題し、医療が細分化・高度化した現在、安全・安心な医療を実現するために、感染対策、リスクマネジメント、緩和ケア、栄養サポート、周術期口腔ケア、リハビリテーション、麻酔医・手術ナースとの連携、トランスレーショナルリサーチ、医工連携による医療機器の開発など、様々な「チームのちから」の観点から議論がなされました。災害医療分野においては、阪神淡路大震災、東日本大震災や熊本地震の教訓から、災害時の病院機能を意識した防災訓練の実施や災害派遣医療チームの育成についてのワークショップが企画されました。

佐々木助教はワークショップ 10「災害時におけるチームのちから」(座長: 岩手医科大学 佐々木章教授、徳島大学西村匡司教授)において、研究テーマである医療機関受援計画(今回は西日本を対象)および東北大学病院の BCP 策定への取り組みについて講演を行いました。徳島県からの聴衆が多いセッションで南海トラフ地震津波対策には強い関心を持っておられる方が多く、発表の後には制限時間がオーバーするほどの質問・討議が重ねられました。また徳島県立中央病院、徳島赤十字病院などの災害対策担当医師から今後の受援計画策定へのアドバイス・協力も求められました。

次回、第 43 回は 2018 年 6 月 21 日-23 日に東京都(虎ノ門ヒルズフォーラム)で開催される予定です。



東北大学病院 BCP 策定への取り組み説明
(行程、病院を支える各部署の模式図)

医療機関の受援計画
BCP 策定の意義